

# きよたまちづくり区民会議通信

第4号

発行元 きよたまちづくり区民会議 (事務局：清田区市民部地域振興課)

〒004-8612 札幌市清田区平岡1条1丁目

電話 011-889-2024

きよたまちづくり区民会議では、「防災」をテーマに取り組みを進めています。

## きよたまちづくり区民会議を開催

6月27日、今年度第1回の区民会議を開催し、24年度に取り組む具体的な内容などについて話し合いました。

9月25日、第2回の区民会議を開催しました。8月23日に実施した避難場所見学会の内容の振り返りや、防災標語・川柳の優秀作品の選定、11月4日開催の「清田区民フォーラム」の内容などについて話し合いました。

### 災害時要援護者避難訓練の事例紹介

第2回の会議では、9月23日に北野第二団地自治会が実施した災害時要援護者避難訓練について、一瀬委員（清田区福祉のまち推進センター運営委員会 委員長）から事例紹介がありました。訓練には、あらかじめ組み合わせした要援護者（41名）と支援者（81名）が参加。要援護者の自宅に支援者が迎えに行き、一時避難場所の公園まで避難を行いました。

区民会議の様子



## 子ども防災クイズの実施（清田ふれあい区民まつり）

7月21日に実施された第15回清田ふれあい区民まつり会場において、防災グッズの展示を行ったほか、清田区子ども会育成連合会などの協力のもと、「子ども防災クイズ」を実施。参加した216名の子どもたちに、災害発生時の行動などについて啓発を行いました。

清田ふれあい区民まつりの様子



## 収容避難場所見学会の実施

詳細は3ページ

8月23日、平岡小学校を会場に区民会議委員による収容避難場所見学会を実施しました。

## 清田区民フォーラム2012を開催

詳細は2 - 4ページ

11月4日、今年も清田区民センターを会場に、区と共催で清田区民フォーラムを開催しました。

松尾議長あいさつ

記念講演・会場の様子



# 清田区民フォーラム2012

清田区が誕生した11月4日、区と共催で清田区民フォーラムを開催しました。

「確認しよう！わが家の防災計画」と題し、来場した方が日ごろの災害への備えを考えるきっかけになるよう「防災」をテーマに実施。また、今年は、区誕生15周年を迎えることから、子どもや家族連れの方も参加できるよう日曜日の日中に行いました。

子どもたちが災害への備えについて楽しみながら学べるよう、札幌国際大学劇団テアトロが「防災」をテーマに演劇を公演したほか、子ども向け防災体験プログラム「おもしろキッズ防災楽」を同時開催しました。

## 札幌国際大学 劇団テアトロ演劇公演

日ごろの備えについておもしろく、わかりやすく解説してくれました。



## 子ども防災体験プログラム 実験室「おもしろキッズ防災楽」

- ・うちの備え大丈夫？ゲーム（非常持出品の内容を考える／非常食を食べてみる／必要な量の水を持ってみる）
- ・おもしろ実験室（ペットボトルでゆれのマジック／液状化現象のふしぎ ほか）



子どもたちも日ごろの備えについて考えました

## 防災標語・防災川柳 表彰

区民会議が募集した標語・川柳の優秀作品表彰を行いました。

松尾議長から受賞者の方を表彰



### 防災標語

- ・絶対に 自分の命は 自分で守る 近藤 千陽さん
- ・いつ何がおきてもいいように ひなんバッグを用意しよう 坂本 和さん
- ・地震の時 火事の時こそ 冷静に 春名 姫花さん

### 防災川柳

- ・震災に 備え我が家は 道なかば 立花 久直さん
- ・訓練にゃ 出ますが本番 なしにして 大場 與之さん
- ・防災は 地域ぐるみの 絆の輪 梶川 榮治さん
- ・自分のことは 自分で守れ それ基本 菊地 智世さん

## 地域の取組事例発表 収容避難場所見学会の取組について（詳細は3ページ）

### 記念講演「清田区を知り、大規模災害に備えよう」（詳細は4ページ）



#### 講師プロフィール 加村 邦茂(かむら くにしげ) 氏

1978年3月 岩手県生まれ。北海道大学大学院農学研究科（砂防学）修了。

北海道内の建設コンサルタントに勤務後、平成17年から現在の所属であるNPO法人環境防災総合政策研究機構で北海道における活動に参画。「札幌市防災DVD\_今、あなたにできること。」の監修にも関わる。平成23年11月からは主に東日本大震災に関する調査・研究や防災計画の検討のため、環境防災総合政策研究機構東京事務所に勤務。

## 収容避難場所見学会の取組について

清田区で災害への備えをしている家庭は  
3割のみ(平成23年度防災アンケート)

日ごろの災害への備えを進めるには、  
備えの大切さを認識することが重要

区民会議では、収容避難場所見学会に  
取り組むこととしました。

収容避難場所を見学することで、備蓄の状況や避難した際に使える場所と使えない場所を事前に確認したり、避難場所の開設・運営手順などについて理解を深め、災害が発生した際の状況や避難者の役割などについて具体的に考えることにつながります。

林幹事長から  
取組事例を発表



### 8月23日、平岡小学校のご協力のもと、収容避難場所として指定されている同校の見学会を行いました。

事前勉強会：避難場所の開設・運営手順や備蓄について勉強会を行いました。

#### 避難場所の開設・運営手順

開設にあたって市職員、学校職員が参集。建物の被害状況を確認し、避難者を誘導。ライフラインの確認、区災害対策本部への連絡、避難スペースの設定、避難者の受付、負傷者や要援護者の対応、住民による自主運営委員会の編成などを行います。

**避難者の役割** 運営初期は市職員を補助、その後、立ち上がった自主運営委員会を引き継ぎ、自主運営を行っていきます。

校内見学：備蓄物資や屋上、電気室、ポンプ室、体育館などの見学を行いました。

- ・自家発電設備はなかった。停電下ではポンプが動かないので水洗トイレも使えない
- ・飲料水の備蓄はなかった。災害時は区役所の貯水槽(応急給水拠点施設)から給水
- ・避難時、全ての教室を当然に使えるものではないことがわかった

#### 札幌市の備蓄物資の内容

アルファ米、パン、クラッカー、粉ミルク・哺乳瓶、毛布、寝袋、簡易トイレ、紙オムツ、ろうそくランタン、手回し充電ラジオ、生理用品等。  
(非常食は市全体で約19万食分)

**備蓄場所** 平岡小学校をはじめ区内で13カ所(市全体では213カ所)に分散して備蓄。災害発生時に市全体で必要なところに搬送されます。

事前勉強会の様子



校内見学の様子



### 見学した内容は、9月25日の区民会議で振り返りました。

- ・災害状況によっては備蓄物資がすぐ届かないことも想定され、最低3日分は自分で備えておくことが重要
- ・夜間や休日に避難場所が開設される場合、災害状況によって市職員がすぐに集まるとは限らないのでは
- ・冬場に避難場所が開設されるとき、建物の安全確認を待っていたら、避難者は凍えてしまうのでは
- ・避難したときにどの教室を使うことができるのか、平岡小学校以外でも事前に確認しておくべき

**日ごろから、地域と避難場所である学校とがよく連携して、有事の際に備えておくことが大事**

### そこで、今後、見学会の取組を、区民の方にどのように広めていけばよいか検討しました。

防災の取組を実効性あるものにするには、地域の実情に沿った内容で進めていくべき

・避難場所見学会も、いくつかの単位町内会ごとに、最寄りの学校と連携して実施していく形が望ましいのでは

区民会議としては、避難場所見学会が各地域で実施されるよう働きかけを行っていくべき

- ・先行して実施された地域の事例を情報発信
- ・見学会を実施する地域があれば参加の呼び掛け

## 記念講演

## 「清田区を知り、大規模災害に備えよう」

(内容抜粋)

講師 環境防災総合政策研究機構 主任研究員 加村邦茂 氏

**清田区を知る** まず、皆さんがお住まいの地域についてお話しします。清田区内の団地ですが、大体、昭和36年頃から最近にわたってできた宅地です。地形図をみていくと、急激な上り下りの無い地域でも、中には昔の地図では結構入り組んだ地形だったところもあります。また、地質ということでみていくと、清田区は火山灰に関連した粘土層や岩石でできた地域が多く、比較的古い年代の地層であり、**地震に比較的強い、揺れにくい地盤といえます。このほか、川から運ばれてきた砂や泥でできた地域もありますが、この地域はそれと比べて弱いというのが地質上、いえ**てくることとなります。

**清田区で起こり得る災害** **どういふものがあるか知るためには、ハザードマップが有効**です。札幌市では大河川の洪水ハザードマップと中小河川ハザードマップ、それと地震防災マップ、さらには土砂災害危険箇所図が作成・配布されています。**自然災害としては洪水、地震、土砂災害、この3つが考えられる災害**になります。災害は避けることはできませんが、災害を知ることで、災害に伴う危険をできるだけ減らしていくことができます。

**洪水**の場合、中小河川では雨が降り始めてから川があふれるまで、短いところでは1時間しかありません。ハザードマップを見ると、**厚別川があふれると、大体、深いところでは2メートルを超えます**。このほか、まちに雨が降って水があふれるという内水はんらんがあります。札幌市では、**1時間に35ミリ以上の雨が降ると、地域の低いところに水が集まり、冠**

**水することが起こり得えます。単位町内会で地域をいろいろと歩いてどこが低いところか確認いただければと思います。**

**土砂災害**の原因は雨や地震です。**清田区の場合は、ほとんど崖崩れ**に関連する土砂災害です。崖が崩れてその範囲の住宅を押しつぶすことが考えられます。**土砂災害危険箇所図が連合町内会単位で回覧されていると思いますので確認ください。**ほかの区では、雨に伴う土石流も起こることがあります。

**地震**の揺れやすさですが、石狩川によって運ばれてきた堆積物が比較的揺れやすいということで、**札幌周辺は北海道の中でも比較的揺れやすい部類**のようです。札幌における地震災害は主に5つの地震を想定してハザードマップがつけられています。4つの内陸型地震と苫小牧沖で起きる1つの海溝型地震。一番関係してくるのが内陸型でも月寒背斜面に関連する断層です。実際にこれが動いたらどうなるかということでつくられたハザードマップでは、**大体の地域が震度6強から6弱、一部地域では、震度7と想定**されています。

地震のときにもう一つ心配なのは、**液状化**。水を含んだ状態でかみ合っている砂の小さな粒子が地震などで揺れて離れて水が入ってしまい、地盤が液体のような挙動を示して、家が傾いたり道路が波打ったりします。清田区でも、2003年十勝沖地震の際に被害がありました。これは、昭和20年代の地図を見ると、**昔、谷だったところを埋めて宅地にしているところで液状化現象が起きており、ハザードマップを見ても、液状化の発生が高い**、もしくは

可能性があるというような判定がされています。もう一つ、傾きやすさ、壊れやすさという部分をみていくと、2007年の能登半島地震の際、川や昔の川の跡に沿ったところで被害が大きくなっていました。

**昔の地図と今の地図を見比べながら、地域が昔どんな地形だったのかを確認することで防災を考えるきっかけにもなります**ので、皆さんにもお勧めしたいと思います。

**命を守るために家具の固定**

地震が起きたときのことを、確認したいと思います。事前に物を備えておく。確かに大事です。その前に自分の命が助からないと、備蓄品を備えていても使えません。**地震によるけがの原因の4割以上が家具の転倒、落下です。命を守るために家具の固定を**、何を守るのか意識しながら考えていただきたいと思います。借家住まいですと、固定するのは難しいのですが、子供の命は守りたい。寝ているとき地震で物が倒れてくることがないように、子供がいる部屋には、固定ができないのであれば物は置かない。ご高齢の家庭では、寝室にタンスを置いているとよく聞きます。旦那さんの頭の上にタンスがある。こういう配置を少し変える。変えられないなら寝る向きを変えるとか、最低限頭を守る。それだけで多少の効果はあります。

**安全の確保を考えながら生活を**

緊急地震速報が鳴ったらどうするか、**動けなかったらダンゴムシ**、本当にその場で丸まる。それだけでも物に当たる確率や当たったときの衝撃は押さえられます。**そういうことを皆さん、いろいろなところで考えながら生活していただければと思います。**